

# 眞日本武道空手道連盟

## 大会規約

\* 本大会は、武道の本質を追求する大会であること念頭に開催するものである。

- 勝 敗 \* \* 一本技で勝ち/技有り2本で合せ一本勝ち/技有り・有効ポイント(技有り無しの場合)の多い選手の優勢勝ち。  
一本勝ち \* \* 反則箇所を除く部分へ突き・蹴りが瞬時に決まりダウンした時「一本」とする。
- 技 有 り \* \* 反則箇所を除く部分へ突き・蹴りが瞬時に決り、その打撃のくい込みで顔面がのけぞった時、そのダメージにより(2本) \* \* 一時的に戦意喪失となった時、ダメージで膝や手を床に着いたり一瞬動きが止まった時、足掛けなどで相手を倒し \* \* 極み突き・蹴り(顔面・胴体の直前)を決めた時、下段回し蹴りで足を引きずった時「技有り」とする。
- 有 効 \* \* 反則箇所を除く部分へ突き・蹴りが瞬時に決り、効果的である場合に限り「有効」とする。連続打撃が適格に急所に(判定時優先) \* \* 決った時、互いの攻撃が相打ち又時間差で当たった時、又、胴防具着用選手への突き蹴りが適格に決った時は「有効」と \* \* する。但し、面防具の表面をかすった打撃、面上部(額部分)、軽い打撃、くい込みの無い打撃は「無効」とする。
- 有 効 技 \* \* 追い突き、順突き、逆突き、ジャブ、アッパー、フック、前蹴り、廻し蹴り、横蹴り、三日月蹴り、後蹴り、後廻し蹴り、膝 \* \* 蹴り捌き、などのほか下段廻し蹴り・足払い後の極み突き蹴り、試合の流れからの一瞬の引っ掛けからの膝蹴りなど。 \* \* 顔面への有効打撃部分は、(アゴ・鼻・コメカミ)とする。「ヒタイ」については、頭突きが出来る事から無効とする。
- 反 則 \* \* 締め技、衣掴み、投げ、タックル、背後から攻撃、倒れた相手への攻撃(金的、後頭部・上頭部・首・耳)への直接攻撃 \* \* 面後部紐掴み引っ掛け、自ら場外に逃げた場合は反則行為とみなす。その他審判が特に反則とみなしたとき。
- 特記事項 \* \* 判定は、技有りを有効数より優先とする。打撃が決り、主審、副審の死角となり見落とした場合は、審判長が上記規約の技術ポイントを加えることができる事とする。
- 注意事項 \* \* 技有り・有効取得後、故意に場外に逃げたり、試合場内をフットワーク等で逃げきりをし、戦う意思がないと判断さ \* \* れた場合相手選手の「技有りポイント」となる。但し、捌きの運足(ステップ)はこれにあたらぬ。 \* \* 試合中に、打撃の応酬で面がずれ固定されない場合は、主審判が試合を止め面をつけ直し試合を続行すること。 \* \* 試合中の負傷で試合続行不可能と判断した場合、相手選手の勝ちとする。 \* \* セCONDが審判・相手選手に対し武道精神に反する過度の応援中傷があった場合失格退場となる。

- 判 定 \* \* 審判は、無防具を前提に判定をする。試合終了時、技有り・有効の多い選手の勝ちとする。 \* \* 副審判は、主審判の死角や打撃の見落としを常に補助する。又、大会審判長が有効打撃と認めた場合は、有効ポイントとする。減点1が有った選手は、相手選手の有効1相当とする(本戦の減点などは延長戦に持ち込まない)。
- 延 長 \* \* 互いに有効打同点・又は、ない場合、延長とする。延長での勝敗は、一本又は、技有り・有効ポイント先取勝ちとする。 \* \* 最終延長戦に於いては、必ず勝敗を決定し、互いに差がつかない場合、身体指数数値の少ない選手を勝者とする。 \* \* 延長は、2回までとする。
- 減 点 \* \* 減点は、悪質なものを除き注意が与えられる。注意を2回以上受けた場合・悪質な反則を行った場合・主審判の判断 \* \* により特に悪質な試合態度と見なされた場合は、減点1となり、減点2で失格となる。
- 失 格 \* \* 反則・注意を重ね、減点2となったとき。 \* \* 試合中 審判の指示に従わない、粗暴で悪質な試合態度の場合。 \* \* セCONDが相手選手や審判に対し暴言中傷し、武道精神に反する応援があった場合。 \* \* 出場時刻に遅れた場合、試合を理由なく放棄した場合。 \* \* 大会主治医の診断を受け、その結果試合続行不可能と診断されたとき。 \* \* 試合中、本人(家族等)に関する不慮の事故等が発生したとき。 \* \* スポーツ安全保険に未加入で大会参加が発覚したとき。
- 防 具 \* \* スーパーセーフ面・ファウルカップ・パンチンググラブ・布製足サポータ着用。 \* \* 面・胴・パンチンググラブは、主催者が用意。 \* \* 足サポータ・ファウルカップ・マウスピース(必須)・インナーグラブ又は手袋は、個人で用意する事。 \* \* 胴防具は、選手の希望で使用を許可する。 \* \* 拳へのテーピング・バンテージは禁止。手首へのテーピングは2巻きまでとする。
- 試合時間 \* \* 試合時間 一般部3分/決勝戦一般部5分、延長は1分30秒とする。
- 安全性 \* \* 武道・武術本来の技が発揮できる試合とするためにセーフティ防具着用とする。